



# 1300年の歴史 小川和紙

小川町の小川和紙は、1300年の歴史があり、正倉院の文書に記録が残っています。小川和紙の中でも和紙は昭和53年に「重要無形文化財」に指定されました。

実際には、もと大きく重いの！

小川和紙ができるまで

- ① 楮の処理 楮を糸状にできる状態にするために蒸しやむき、もみ、ひき煮こみ、さらし、打ちの作業を行う。
- ② トロたたまし トロアオイの根を叩き、靱液を取り出す作業を行う。
- ③ 紙漉き 原料を箕桁ですくい取り、紙を漉く作業を行う。
- ④ 紙押し できた紙を乾かす作業を行う。

★完成!★

完成した和紙は紙として使うだけでなく、折り紙や色をぬればかざりとしても使うことができます。

私は、1300年の歴史を持ち、細い作り方をした人な小川和紙は、ほんとに興味深いです。これからも小川和紙が受け継がれていくように、美しさだけでなく、厚みもこめて、推します。

上の糸は実際に小川町で作った小川和紙です。和紙は主に①の楮という木を使って作ります。小川町で和紙が盛んなのは、原料の楮が自生していることでもあります。紙の元になる液はとてろとろしてました。それはトロアオイといふ原料として使っているからだろうです。

紙の厚さによって材料を変えています!

◆審査委員長講評

端切れを入れて、和紙ってこういうものだよという、はみ出た表現が良かった。小学生の時に実際に和紙を漉いてみるというのは、貴重な経験ですし、楽しかったと伝われば、行ってみたいという子も増えますから、是非これを見て、また和紙をやってみる子が増えてもらいたい。



1857 1945 2018

## BACK TO THE 江戸 in 川口

### 日光御成道 川口宿

～はじめに～ 私の住んでいる川口市は昔を戻して東武群を併せています。鉄道なら東武東上線で荒川橋梁を渡り、早稲川大橋を渡り、町内へ行きます。橋を渡り川口宿へ戻ると、昔の川口宿を想った川口市のまちと、川口宿のまち、江戸時代の交通を調べ、実際に歩いて、その当時の足跡を辿ってみました。

日光御成道とは？  
江戸時代、将軍が日光参りに利用した専用の街道。江戸の町町通で中山道と分岐、荒川を渡り荒川を渡り、川口、橋が谷、大門、岩槻の5宿を経て半野の宿で日光途中に合流するまでの12里30町(約60km)の距離にわたる。

川口宿について  
川口は昔から川を「荒川の渡り」を指す宿場町として賑わった。宿場町の行脚や観光客の往来の拠点として、江戸時代後期の名宿「日野屋」が「楽屋敷」には、幕府御用金の取立や、とよはれから数十年前の宿場町に記録や、昔ながらの川口市のまちの歴史を、

江戸時代の地図 現在の地図

川口市は、今も日光御成道の江戸宿場の人々を思い起こさせる。 宿場町...明治35年(1902)に日光御成道の宿場町として指定された。 川口宿...日光御成道の宿場町として指定された。 日光御成道...日光御成道の宿場町として指定された。 日光御成道...日光御成道の宿場町として指定された。 日光御成道...日光御成道の宿場町として指定された。 日光御成道...日光御成道の宿場町として指定された。

◆審査委員長講評

起承転結があってお手本みたいな作品でした。なんで調べようかと問題意識が明確に出ているので、それに沿った表現形式になっていた。御成道という今も昔の人も同様に街道として使っているところに軸を置いて街を眺めているので、変化が非常に分かりやすかった。この手のパロディーっぽい表現は、これからの若い子に挑戦してもいいのではないかな。



# 優秀賞



岩 さくら  
川越の歴史について



内田 圭哉  
東にも嵐山あり



大澤 柊一 加藤大志  
杉戸宿にある寺・神社めぐり



大谷 実穂  
あんしんあんぜんなわたしのすまぢのめじりし



久世 柚季  
何故、公園で遊ぶのか?  
そこに公園があるからっ!



椋谷 隼人  
文豪集う大宮公園



権田 日和  
色とりどりの花々に  
囲まれる皆野町



坂田 真優  
大人も子供も心休まる戸田



嶋根 妃夏  
埼玉の花鳥風月 東松山



白川 泰晟  
北浦和のうまいもん  
家族を口福にするお店たち